

今日のトピック 鉄鉱石の価格と豪ドルの動向 需給改善で価格は持ち直しへ、豪ドル高を支援しよう

ポイント1 価格は上下に激しく振幅 足元は軟調な動き

- 鉄鋼の主原料となる鉄鉱石の価格は、17年6月に1トン当たり55米ドルを割り込みましたが、これを年初来の安値として持ち直してきました。その後、同80米ドル近傍までの上昇を経て、直近では同60米ドル台で推移しています。

ポイント2 中国での需給が改善へ 価格も持ち直しへ

- 7月から8月にかけての鉄鉱石価格の上昇は、世界一の鉄鋼生産国である中国で、鉄屑を原料とする違法な低品質鉄鋼「地条鋼」の取り締まりが強化されたことが背景にあると見られます。これにより、鉄鉱石を原料とする鉄鋼の需要が高まったことが、鉄鉱石価格の上昇につながったようです。
- その後、鉄鉱石の価格は同60米ドル前後まで下落しました。しかし、中国の鉱山の損益分岐点が推定1トン当たり70米ドルであることから判断すると、この先、産出量は伸び悩むと見られます。一方、中国の鋼材需要は、社会資本整備のための公共投資拡大に支えられ、増勢を維持する見通しです。以上を踏まえると、今後、中国の鉄鉱石需給は改善に向かうと予想され、価格も底堅い展開が見込まれます。

今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう

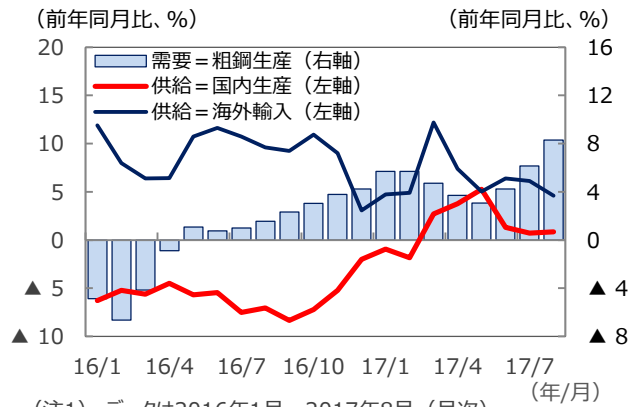
- 豪ドルの対円相場は、16年6月下旬につけた1豪ドル = 74.75円を当面の底に、豪州経済の改善や資源価格の上昇等を支えとして、戻り歩調を辿っています。足元では、同87円台で推移しています。

【鉄鉱石価格と豪ドルの対円相場】



(注) データは2016年1月1日～2017年10月10日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【中国の鉄鉱石需給バランス】



(注1) データは2016年1月～2017年8月 (月次)。
(注2) データはすべて3か月移動平均の前年同月比伸び率。
(出所) 中国国家统计局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 今後も豪ドルの対円相場は、①鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直し、②豪州の貿易収支改善、③日豪の金融政策の方向性の違い (豪州は中立姿勢維持の見通し、日本は緩和姿勢継続) 等から、堅調な展開が予想されます。

ここも
チェック! 2017年9月22日 良好な豪州経済
2017年9月14日 中国の経済・市場動向 (2017年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。